

か かつようそくしん はないくたいけん とりくみ  
花きの活用促進のための花育体験の取組

とよはしりつ とくべつしえんがっこうこうとうぶ  
豊橋市立くすのき特別支援学校高等部の  
れいかず3ねん10がつ 12がつ はないくたいけんきろく  
令和3年10月~12月にわたる花育体験記録

ようらん さかせてかんしゃ きもち つたえよう  
洋らんを咲かせて感謝の気持ちを伝えよう！



はなわくJAPAN (とよはししか えんげいしんこうきょうぎかいようらんぶかい  
豊橋市花き園芸振興協議会洋らん部会)

とよはししきんぎょうぶのうきょうしえんか  
豊橋市産業部農業支援課

じぎょうおよび 事業及び	じゃばんふらわーきょうかぶろじえくとすいしんじぎょう ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業
めにゅー メニュー	か かつようそくしん はなくたいけん えんげいたいけん 花きの活用促進のための花育体験、園芸体験
とりくみめいしやう 取組名称	こども いく ぶろじえくと 子ども「らん育」プロジェクト
もくてき 目的	せいと きやういく げんば ちいき せいざん はな みどり ふれそだてる 生徒が教育の現場において地域で生産されている花や緑に触れ育てる きかい かいが いちれん さいばいかつどう つうじて 生命 どうとき じっかん 機会をつくり、開花までの一連の栽培活動を通じて、生命の尊さを実感して もらいつつ、「やさしさや美しさ」を感じる気持ちを醸成。
とりくみないやう 取組内容	はなわく JAPAN (とよはししか えんげいしんこうきやうぎかい ようらんぶかい とよはし 市立くすのき特別支援学校に出向き、花育教室 (全3回) を実施

はなめつき こちやうらん なえ こうとうふせいとひとり ていきやう やく3かげつかん 10がつ  
花芽付きのコチョウランの苗を高等部生徒一人ひとりに提供し、約3か月間（10月

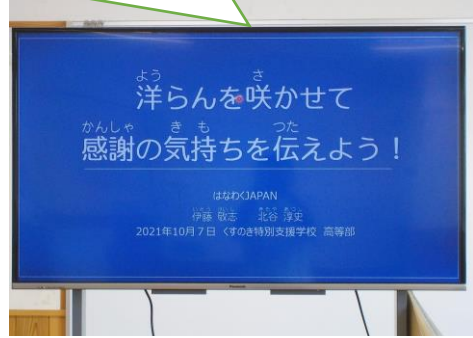
しよじゆん 12がつしよじゆん みす ていねい かんり はな そだて さかせる たいけん  
初旬～12月初旬）、水やりなど丁寧に管理をしつつ花を育て、咲かせることを体験。

【第1回：10月7日】

はなわく JAPAN (とよはししか えんげいしんこうきやうぎかいよう  
らん部会) の伊藤さんと北谷さんが講師です。



さあ、きやうからスタート！感謝の気持ちを  
伝えるため、ようらんを咲かせよう。



とよはし ようらんせいざん にほんいち しってた？  
豊橋の洋ラン生産は日本一、知ってた？



どれにしようかな！迷うな？



【第2回：11月17日】

講師の伊藤さん、北谷さんからは、「花の健康チェック、キズはないでしょうか？」

「花芽や根をよけて、はちに支柱をさします、そしてピンチで莖を支柱に留めて！」

と丁寧に教えていただきました。さあ、もう少しで花が咲きます（咲き始めた花もあるよ  
うです）、それまでしっかりと世話をしてください。

花の健康チェック。大事に育てているから、咲き始めたコチョウランもあります。



コチョウランの根をマイクロファイバーで映すと、こんな根っこ、ここに水分を貯めています。



鉢に絵を描いて感謝の気持ちを伝えよう！  
コチョウランの大輪も参考にしようかな。



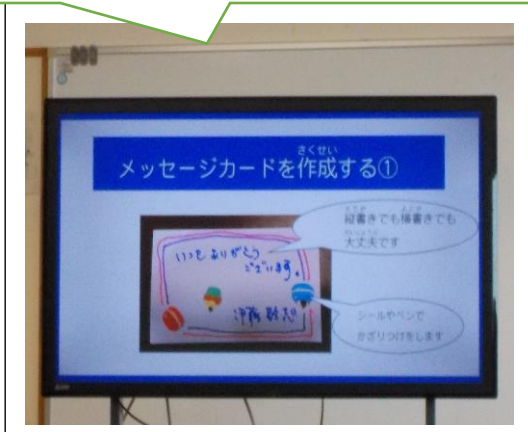
照れくさいけど、「ありがとう」と書きました！



【第3回：12月2日】

こちょうらんがさいたら、ひごろの感謝を込めて大切な人（保護者、家族）へプレゼントをすることで、花への関心を深めるとともに親しみを感じてもらい、こちょうらんを含め花きの需要拡大への契機とします。

今日が最終回。家族に花を贈るメッセージカードを作ります。



メッセージカードには感謝の気持ちを込めて！



ラッピングもじょうずにできました。さあ、家に帰ったら、大事に育てた「らん」をプレゼント！



3か月の間、みんなで心をこめて大事に「らん」を育てました！完成です！



はないくたいけん  
【花育体験アンケート】

はないくたいけんしゅうりょうご とうとうぶせいと みなさん ほごしゃ ほう あんけーと こたえて  
花育体験終了後、高等部生徒の皆さんと保護者の方にアンケートに答えてもらいました。

【高等部生徒】

※26名の生徒中、回答者数15名

Q1. 「らん」の花育体験は楽しかったですか？	<input type="checkbox"/> 楽しかった	<input type="checkbox"/> 楽しくなかった	<input type="checkbox"/> わからない			計
	14人		1人			15人
	93.3%	0.0%	6.7%			100.0%
Q2. 今回の花育体験で、どんな気持ちになりましたか？	<input type="checkbox"/> 元気になった	<input type="checkbox"/> 楽しかった	<input type="checkbox"/> 明るい気持ちになった	<input type="checkbox"/> わからない		計
	5人	6人	3人	1人		15人
	33.3%	40.0%	20.0%	6.7%		100.0%
Q3. 自分で大切に育てた「らん」の花を家族に贈ったときの気持ちは？	<input type="checkbox"/> うれしい	<input type="checkbox"/> ありがとう	<input type="checkbox"/> きれいだね	<input type="checkbox"/> 上手に育てたね	<input type="checkbox"/> その他	計
	6人	6人	2人		1人	15人
	40.0%	40.0%	13.3%		6.7%	100.0%
Q4. またやりたいですか？	<input type="checkbox"/> やりたい	<input type="checkbox"/> やりたくない	<input type="checkbox"/> わからない			計
	11人		4人			15人
	73.3%	0.0%	26.7%			100.0%
Q5. 「らん」など植物を育てる仕事をしてみたいですか？	<input type="checkbox"/> してみたい	<input type="checkbox"/> したくない	<input type="checkbox"/> わからない			計
	8人	2人	5人			15人
	53.3%	13.3%	33.3%			100.0%

アンケート結果分析

○花育体験は殆どの児童が楽しかったと回答（93.3%）。

花生体験を通して「元気になった（33.3%）」「楽しかった（40.0%）」と回答しており、花（植物）が児童に与える精神的影響が大きいことが感じられます。

○今回の花育体験を契機に殆どの児童がまた、「やりたい（73.3%）」と回答、また植物を育てる仕事をしてみたいと回答（53.3%）した生徒も多く、将来の進路の選択肢の一つとしての機会となったことが感じ取れます。

【保護者】

Q1. 花育体験後、ご家庭で花や緑に対する心の変化がありましたか？（複数回答も可）	<input type="checkbox"/> 花や緑が身近にあると癒しや、部屋の雰囲気 that 明るくなったと感じる。	<input type="checkbox"/> アレンジや生け花を始めたいと思う。「始めた」「増えた」	<input type="checkbox"/> ガーデニングを始めたい。「始めた」「増えた」	<input type="checkbox"/> 生花店や園芸店に行く機会を増やしたい。「増えた」	<input type="checkbox"/> お祝いなどの贈り物に花や緑を使いたい。「使った」「もっと使いたい」	<input type="checkbox"/> これまでと、あまり変わらない。	計
	16人	3人	6人	7人	7人	7人	46人
	34.8%	6.5%	13.0%	15.2%	15.2%	15.2%	100.0%
Q2. 花育体験の前と後で、ご家庭ではどれくらいの花や緑を購入していますか？	花き購入者数（購入頻度）	花育体験前		花育体験後 （花育体験終了2か月後）			
		15人（0～4回程度／月）		14人（0～5回程度／月）			
<p>アンケート結果分析</p> <p>○花育体験後の心の変化では「癒しや、部屋の雰囲気が明るくなったと感じる。」と回答した保護者が最も多く、花・緑に対する関心が深まった状況がみられます。</p> <p>○花育体験前後の購入状況では、全体平均では月当たりの購入回数が若干伸びており、花育体験を契機として花きの購買に繋がったと考えられ、一定の効果は見られたと思われます。</p>							

くすのき特別支援学校で子どもら育プロジェクト

### きれいに咲いてー思い込め

豊橋市野依町の市立くすのき特別支援学校で、市花き園芸振興協議会の若手会員7人が組織する「はなわくJAPAN」が「子どもら育プロジェクト」

の第2回を開催した。

豊橋が生産日本一を誇るコチョウランを多くの人に知ってもらうための活動の一環。子どもらにニコチョウランを育



鉢を飾り付ける生徒たち (くすのき特別支援学校で)

ててもらい、花に親しみながら家族に贈ってもらおうという取り組みだ。高等部3年生26人が参加している。

先月の第1回でニコチョウランのポットが1人1鉢ずつ配られ、生徒らが世話をしてきた。いくつか花が開いてきた

ところで、今回はポットを入れる鉢に絵や飾りをつける作業を行った。生徒たちは鉢にマジックで模様や絵を付け、きらきらしたテープやシールを使って思い思いに飾り付けていった。

作業後、はなわくJAPANメンバーの伊藤敬志さんと北谷淳史さんがコチョウランに関するミニ知識を紹介。生徒らは「へえ」「なるほど」など声を上げながら興味深げに聞いていた。育てている花は12月にラッピングし、家族に贈られるという。

(大林恭子)